

ベストクラス選定理由書

作成者：木田雅貴、岡崎彩夏、東明菜、伊藤博之

科目名称	初等社会（小C（大学院）クラス）		
	（担当教員名： 關 浩和 ）		
課 程	： 大学院（専門職）	開講時期	： 前期
授業形態	： 講義	授業規模	： 30人以下
インタビュー対象教員名	關 浩和		
	（実施日時：2020/07/27 10:50～11:55； 実施場所：ZoomによるTV会議 ）		
インタビュー対象受講者名	宇津木 千穂、南波 真帆		
	（実施日時：同上； 実施場所：同上 ）		
選定理由	<p>【授業アンケートの自由記述欄より】</p> <p>○「先生の熱」が将来につながる学びを促し、教員の意欲につながるというサイクルが出来ている。</p> <p>○現場で使える、将来的なところにつながっている内容を学べる授業になっているようだ。</p> <p>○そして、授業内容に関わって、目標設定が明確にならないと出てこない感想も多く見られた。</p> <p>【教員へのインタビューより】</p> <p>○以前は2単位の授業だったが 2019 年度より1単位になった。そのため、講義はミニマムエッセンシャルズを意識し、内容を精選して行った。授業も「反転授業」という形態となった。</p> <p>○「初等社会科教育法」と連携する形での講義の展開を活かし授業展開の効率化と活性化を図った。</p> <p>○この講義の学生は年齢やキャリアが様々なため、それぞれの学生が自分固有の視点で見ることができるので受講生の経歴を把握しておく。これは、リフレクションカードを活用する際にも役立っており、毎回の授業で受講生に書いてもらったリフレクションカードの中から自分なりのコンテキストを持ったものを授業冒頭で読み上げる。ここで振り返りの質を3段階に分け、それらの段階に応じ、賞賛→指摘→激励を行う。受講生ごとにリフレクションの中身は違うので多様性を活用する。</p> <p>○受講生の「学びたい」という意欲が学年によって異なる。授業は教員と受講生との相互作用で「空気」が作り出される。とりわけ実習を経験した受講生の学ぶ姿勢は大きく変わる。</p> <p>【受講生へのインタビューより】</p> <p>○リフレクションがあるから何を意識して授業に取り組めばよいのか考えるようになる。また、次の授業で、それらを取り上げ、示すので、他の人の意見や考えを知ることができたり、教員がしっかりとリフレクションを見てくれているということが分かったりした。</p> <p>○ただの聴講者で終わるのではなく、体験しながら授業に参加するため、頭を使う必要がある。</p> <p>○教員が入ってきた時点で「空気」が変わる。「しっかりと授業を聞こう」という姿勢につながった。</p> <p>【総括】</p> <p>前年度までは15コマであったが、8コマに変わったため、伝えたい多くの内容の中からミニマムエッセンシャルの視点で精選して講義を展開したが、受講生は社会科の面白さを実感し、教師の伝えたい内容を理解することができていた。また、少人数の講義でも多様性を考えて講義を行い、さらに、リフレクションカードを用いて、他者の意見や考えを知ることによって各自の考えを広めていた。加えて、教員と受講生の相互作用によって良い緊張感が生み出され、学ぶ姿勢に繋がるという良さがあった。以上のことから、本授業をベストクラス選定候補として推薦する。</p>		